

第2回 高森町小中学校運営協議会を開催

◆9月18日（金）、今年度第2回の小中学校運営協議会が行われました。昼間は高森北小学校、中学校そして南小学校三校を訪問させていただき、授業参観、学校環境などを視察し、夕方からは福祉センター大ホールで協議会を行いました。今回のテーマです。

子どもの学びを支えるために、そして、 忙しい先生を助けるため今できることを考えよう

◆長野県では、**教員が子どもと十分向き合う時間を確保するため、地域や学校外の関係団体と連携し、教員が担ってきた業務の負担軽減を目指そうという動きが広がってきています。**

◆また国の方でも、中央教育審議会の「教師を取り巻く環境整備特別部会」では学校業務を①学校以外が担うべき業務、②教師以外が積極的に参画すべき業務、③教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務の3つに分類し、各学校では学校運営協議会での議論等を踏まえて、地域の実情に応じた運用を行うように、という方向を打ち出してきました。

◆高森町小中学校運営協議会では、昨年も「忙しい先生を助けよう！できることはないか」というテーマで熟議を行いました。今回はその2回目ということになります。

地域・保護者PTAでできることを6つのグループで討議（熟議）しました。
出された以下の通りです。

保護者・PTAで考えていきたいこと

◎PTAの大切さ そのためのアピールの工夫が必要
子どものためにもPTAはなくせない 参加を！

- 参観日や学校行事にもっと積極的に参加する
- SNS等で学校、先生の情報を流さない
- こどもの前で学校や先生の悪口を言わない
- 学校のことをもっと知ってほしい
- すぐ決めない、求めない、子どもと一緒に考える

一人ひとりの学びたいを支える しあわせ 信州

「子どもの学びをトコトン支える県民の会」 共同宣言

「子どもの学びをトコトン支える県民の会」は、子どもの学びを県民みんなで支える機運を高めるために、立場を超えて集まった会です。

子どもたちが、一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求するには、先生の支えが必要です。
しかし今、学校の先生たちは多忙で、子どもと向き合う時間が十分に確保できない現状があります。

そこで私たち「子どもの学びをトコトン支える県民の会」は、

**一人ひとりの学びたいを叶えるため、
先生が子どもと向き合えるよう応援します**



【子どもの学びをトコトン支える県民の会】

一般財団法人長野県交通安全協会、公益社団法人信濃教育会、信州大学、信州学び円卓会議、長野県、長野県警察本部、長野県教育委員会、一般社団法人長野県経営者協会、長野県中小企業団体中央会、長野県高等学校PTA連合会、長野県商工会連合会、長野県高等学校長会、長野県市町村教育委員会連絡協議会、長野県公民館運営協議会、長野県市長会、長野県私立中学高等学校協会、長野県中学校長会、長野県町村会、長野県特別支援学校校長会、長野県PTA連合会、長野県養護学校PTA連合会、松本大学

※順不同

皆さんからの
メッセージは
こちらから



長野県の動きです。

- 子どもの教育環境、学校の教育方針等を理解し合うことが大切
- 家庭でいろいろ体験させてほしい 体験不足の子どもが多い
- 親子レクで盛り上がった。こういう体験をもっとたくさんさせたい

地域で考えていきたいこと

◎学校はみんなで創るもの、学校はみんなのものという意識を持つこと 関わっていくことが絶対に必要である

- 学校ボランティアに積極的に協力してほしい（登録）
- 登下校の見守りをこれからも
- 長く地域で生活されている方とのかかわりが地域を考えることにつながる
- 地域の人が学校に入ること（クラブ・授業・参観等）一緒にやるだけで次ぐにつながる
- 学校からもボランティアを募集していく（清掃等）是非入ってほしい
- 子どもたちが地域行事に参加 歴史・文化の伝承のため体験活動を
- 地域のシニアの方々、先輩方を活用したい
- 地域と学校が共に子どもを育てるという視点を大事に 地域の横のつながりも大切に
- 学級総合、個人探究等の時間に、引き続き人的支援が欲しい。地域と、地域のシニアの方々、先輩方、ボランティアの方々をつなぐコーディネーターの存在も欠かせない

学校で考えてほしいこと（忙しい中ですが）

- 学校の授業の仕方など、学校がやっていること、変わってきていることを地域や保護者にきちんと伝えていくことが大事
- 親が学校に何を求めているのか、親の思いを受け止める
- こどもの思い「やってみたい」を拾い上げ実現できる仕組みを作る
- 日常的に保小中がつながれるように、職員がつながっていく（12年を見据えて）
- 学校と地域・社会の連携により、子どもたち一人ひとりに寄り添った多様な学びの環境づくり（学校授業のスキルアップ、子ども理解からの授業づくり）
- 授業アイデアの共有をしてほしい

◆学校は学校教職員だけが創るものではなく、（保護者PTA・地域も含め）みんなで創るものである。そして地域と学校が共に子どもを育てるのだ、という考えは是非大事にしていきたいものです。高森町はそれができると考えます。

子どもの学びの姿はどうであったか

授業参観をして、子どもたちの学びの様子を見せていただきました。そこから良かった点、もっと伸ばしていきたい点を出し合い確認しました。

◆良かった点

- 小中学校いずれも児童・生徒と教職員の関係性が良好な雰囲気だった。
- 参加型の授業が楽しかった。グループごとの目標に向かって取り組む姿がよかった。

○総合的な学習の時間では、グループごと目標に向かって取り組んでいた。学習から外れている子がいなかった。

○家庭科の授業にミシンボランティアさんが入っていた。
大人が入ってくれるだけで、そこにいてくれるだけで安心できる雰囲気があった。



○学校の廊下の掲示物、教室内の机やカバンなどが思ったより整っていた。以前より学習環境が整備されているように思えた。

○自分のやりたいことをやっているせいか、自分からアドバイスを求めたり、進んで練習したりする姿が見られる。(やはり興味あることややりたいことをやることが大事(陸上コーチの目から))

○ひと昔と比較して楽しい授業が増え、子どもが前向きに頑張っている姿が見られた。

○地域(高森)の産業等に関する授業は子ども達の興味を集めていてよかった。

○挨拶ができている子が増えてきている。

○「こうしてみたい」という思いを持ち、表現し始めているところを伸ばしていきたい。



○総合の学習のテーマ、意図、目的が明確になってきた。

○各学年、クラス毎に「らしさ」(特色)がでてきた。

○学び合いの姿が見られた。思いやりやうなずきが見られた。安心して仲間に伝えることができていた。(話せる環境ができていた)

○コミュニケーション能力の高いクラスがあった。(児童・生徒)

○一時間の学習「ねらい・めあて」をしっかりと位置づけ、「ゴールと見返し」をしっかりと行っているクラスが増えてきたのではないかな。さらに大事にしていってほしい。

○目的を明確にして授業をスタートしたクラスは、前向きに活発に学んでいた。

○中学校は落ち着いた雰囲気で学んでいた。(反応が少なかった)ダンスをしていた子どもたちはとても生き生きとしていた。



◆良かった一方で、もっと伸ばしていきたい点も・・・

- ・子どもたちが中心の授業が多く良かった。が、一方で何をしたらいいのかわからないのか、不安な様子で授業に集中できない子も見られた。
- ・やりたいこと、興味のあることを好きなだけやらせることと、集団として皆と協力したり我慢したりして行うこととのバランスが大切だと思った。
- ・先生が一生懸命教えても子どもがついてこない。教え込もうとすればするほど子供は反対を向いてします。先生方も、「教える」から「学ばせる」に意識を変えなければ。



- ・コミュニケーション能力の高いクラスがあった。(逆もあるので) 伸ばしてほしい。
- ・もっと学びを児童・生徒に委ねたやり方で授業を進めてほしい。



- ・動けない(理解していない、自信がない) 児童、生徒への支援をしなくてはいけない。
- ・先生間で、児童・生徒の情報を共有しているのか疑問。(その日あった出来事などを共有する)
- ・保育園、小学校(低学年・中学年・高学年)の発達段階に応じて、何を目的として何を身に着けるのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのか等について、十分に考えて授業を行っていく必要がある。
- ・子どもたちの学ぶ環境を整えることも大切である。

- ・授業中に机に顔をうつぶせていたり、不規則発言や不適切な言動をしたりする児童生徒に対する教師の適切な指導がない場面もあった。

◆多くの委員から小中学校いずれも児童生徒との関係性が良好で、明朗な雰囲気があったこと、そして授業の向上が見られたことが報告されました。「ねらいを明確にした授業」が増えていること、総合での「協働的な学び」の姿の良さが見られました。半面、授業に入ることができない子どもも見られ課題が残ります。

◆就園以前の段階から、保護者への子育てにかかわる町の支援(「気にかかる子」の早期把握、初期療育への「つなぎ」)が適切に行われることが児童・生徒への支援が適切なタイミングで行われ、子どもたちを救うことにつながるのでは、という指摘もありました。